

2018年度の「あたらしいTOYプロジェクト」（研究代表者：桑久保亮太准教授、研究分担者：金山智子教授）は前半は岐阜県美術館で開催した『IAMAS ARTIST FILE #06 みるころみるかえりみる』の制作を協働で行い、後半は昨年度に引き続き、学生の個人作品の制作・発表とディスカッションを進めた。

1 『IAMAS ARTIST FILE #06 みるころみるかえりみる』（岐阜県美術館、2018/9/8~11/3）



『IAMAS ARTIST FILE #06 みるころみるかえりみる』会場

毎年開催している『IAMAS ARTIST FILE』の枠組みで、本学と岐阜県美術館主催のもと、クワクボリョウタとミュージアムエデュケーターの会田大也との2人展として『みるころみるかえりみる』と題した展示を行った。



『IAMAS ARTIST FILE #06 みるころみるかえりみる』展示室

本展覧会ではアーティストとエドューケーターらの行うワークショップを対等に位置付け、来場者が展示作品を見るだけでなく、会場でワークショップに参加したり、その経験を経て作品を再解釈したりする、流動的な場としての展覧会を構想した。それによって、作品鑑賞を作者の意図を読み解く答え合わせに終始するよりもむしろ来場者自身の思考の基点とし、また美術館をより能動的なアイディアの生まれる現場として再認識することを意図した。なおワークショップは毎週末、会田氏または学生らによって計10回開催した。



「マネーワークショップ ——おカネの誕生から未来の姿まで」（会田大也）

6月から9月のオープンまでの期間、本プロジェクトの履修生はクワクボとともに作品制作と設営を行った。また、プロジェクト内外の学生数名がワークショップの企画・開催やその記録などに携わった。



「空間まちがいがし」  
（五十川泰規、柴田一秀、柴田英徳、中田航平）



「観察ねんど」（平瀬未来）

制作協力：

池田慧太、栗田真悟、佐々木耀、  
佐藤菜、佐藤優太郎、柴田一秀、津曲光太  
野上萌、藤本遼太郎、森田理紗子（M1）  
竹村望、棚原みずき、中路景暁（M2）

ワークショップデザイン：

五十川泰規、柴田英徳、中田航平（M1）  
野呂祐人、平瀬未来（M2）



「モノトーク」（野呂祐人）

## 2 『あたらしいTOYコレクション』（なつやすみイアマスこどもだいがく、2018/12/15）

大垣市情報工房とIAMAS RCICの連携企画である教育プログラム『なつやすみイアマスこどもだいがく』の第4回を本プロジェクトが担当し、『あたらしいTOYコレクション』と題して、3つのワークショップを行った。

近隣に住む小学生を対象に、各参加学生の研究テーマをワークショップ用にアレンジし、それらを順番に体験するプログラムを構成した。手遊びを通して自分の身体感覚にイリュージョンをもたらす実験、化粧用のペンで自分の腕に模様をえがく体験、インタラクティブなアニメーションで自分の関与のあり様を考えて語り合う時間と、それぞれの方向性は違うが、遊びを楽しみながら様々なレベルで自分について内省する内容となった。

参加学生：

栗田真悟、佐々木耀、  
佐藤優太郎、長野櫻子（M1）  
協力：中路景暁（M2）



「蟹の錯覚」（佐藤優太郎）



「じぶんの模様をじぶんの腕にえがく」（栗田真悟）



「ブンブンピンピンブン」（長野櫻子、佐々木耀）

### 3 プロジェクト研究発表会（ソフトピアジャパン センタービル、2019/2/22-25）

プロジェクトで通年で制作していた各学生の作品・習作を展示し、来場者への解説を行なった。



プロジェクト展示の様子



プロジェクト展示の様子